

<テーマ>児童が楽しめる「おもしろ問題」の取組（大河原町立大河原南小学校）

<実践例2>「先生スペシャル問題」のコーナーを作成し、児童が算数に親しみをもつための工夫

- 職員室前の廊下に全学年児童が自由に問題に参加する「先生スペシャル問題」のコーナーを作成した。
- 問題は、2択や3択問題にし、掲示物を工夫して重さや量を体感できるように工夫し、どの学年でも参加できるようにした。

- (例) ①プールの水の量は、牛乳パック（1L）何本分かな？（ア約4千本 イ約4万本 ウ約40万本）
 ②体育館の広さは、はがき何枚分かな？（ア約4千枚 イ約4万枚 ウ約40万枚）
 ③3つの袋で一番重いものはどれかな？（アお菓子の箱に入る量 イ2Lに入る量 ウ紙コップ10杯分の量）
 ④一番長いのはどこかな？（ア掲示板から校門まで イ職員室前廊下 ウ体育館の横の長さ）
 ⑤どの木が一番高いかな？（校地内にある3本の木の写真をア～ウとして）



（一番重いものを体感できるように、砂袋を用意した写真）（プール開きに合わせて水の量を問題にした写真）



（すべり台や校舎の高さなど、長さに関する問題）

（予想するところにシールを貼った様子）

（児童の反応）

- ・ 自分の名前をシールに書いて選択肢に貼ることを楽しんだ。また、正解率や参加率をクラスごとに表彰することで喜ぶ姿が見られた。身近な生活場面に算数を感じることに繋がった。